

# Structure Kansai No.102 2009.7

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

## 平成21年度(社)日本建築構造技術者協会関西支部 支部総会 5月20日開催



関西支部 支部長

新任のご挨拶

(株)東畑建築事務所  
近藤 一雄

このたび角支部長の後任に選任されました近藤です、JSCA関西会員の皆様よろしくお願いたします。

5月27日より改正建築士法が施行され、一定規模以上の建築物の設計に対する、構造設計一級建築士の関与が開始されました。ようやく構造設計者の法的地位が構造設計一級建築士という形で確立されました、今まで以上に社会に対する責任が重くなります。構造設計者が自らの職責を達成するにふさわしい自覚と発言力を持ち、自らの未来を開き、そして地震国日本の建築文化に貢献するために行動することが、我々に与えられた責務であると信じます。そのために個人や会社人ではできない範囲を、JSCAという組織活動で実行する時と考えます。

社会からの期待に応えるためには、構造設計に携わる技術者全員の技術や倫理観などの職能研鑽がますます必要となります。

より多くの仲間が参加し、行動していくJSCA関西を目指し、役員を増員しました、新たな事業も立ち上げる予定です。会員各位の積極的な参加、協力を期待いたします。



関西支部 副支部長

「JSCAの進化」

(株)平田建築構造研究所  
西村 清志

引き続き副支部長を務めることになりました。よろしくお願いたします。

激動の2年が過ぎました。角前支部長は適切に指示を出して、JSCA関西を牽引されました。支部長の任務ご苦労さまでした。引き続きご協力お願いたします。適判制度は、初期の大きな混乱は収束しつつありますが、適判員側の過剰な要求が未だ散見されるようです。JSCA会員は判定員と設計者の両者の立場であります。設計者の立場にも立って、必要な事は指摘するが、過度な要求は避けるべきであると考えます。

構造設計一級建築士制度では、資格取得者数が予想を大きく上回り約7700名となりました。何か配慮があったと感じられます。JSCA構造士は2696名です。JSCAは構造設計一級建築士の方にJSCA構造士資格を上位資格として取得していただき、会員を充実する必要があります。そして上位資格を表明するためには会としての努力も必要となりますから、JSCAは行動計画を示すべきだと思います。この目標を持つ事で、JSCAはますます発展、進化すると考えます。近藤支部長、辻副支部長、各委員会委員長とJSCA関西が盛り上がるよう考えてまいります。支部活動への参加をよろしくお願いたします。



関西支部 副支部長

新任のご挨拶

(株)鹿島建設  
辻 幸二

副支部長に就任しました辻でございます。5月20日の支部総会において、近藤支部長から「JSCA関西支部2009年度活動方針」が示されました。新任の副支部長として支部長を補佐し、この活動方針に沿って、微力ながら精一杯努める所存です。

また、本部担当理事として、事業委員会を担当する予定です。事業委員会は、講習会、見学会等の企画、運用に関する事項を職掌することになっており、「本部活動方針」の「研修会の拡充と全支部への展開」が主要な仕事になるものと思われまます。この本部方針を受けて、関西支部は「JSCA全国展開講習会の開催」を活動方針の2番目に掲げております。昨年実施された「スキルアップセミナー」の第2弾として、(1)若手を対象とした入門編、(2)中堅を対象とした実践編、(3)シニアを対称とした理論編が予定されています。会員の皆様方の積極的なご支援・ご協力をお願いいたします。

構造設計一級建築士制度がスタートした今年度は、我々構造設計者の存在価値が問われる正念場の年でもあります。「JSCAが何をしてくれるか」ではなく、「自分が構造設計者として、JSCAのために、構造設計界のために、そして自分のために、何ができるか」が問われています。皆様方の強い支援を期待します。



第8回  
構造設計ゼミナール

木構造分科会  
横田 友行

「木造の耐震診断を始めませんか？」

1. はじめに

約5,000人が木造住宅の倒壊による圧迫死で亡くなるという、特に関西の建築構造設計技術者にとってショッキングな事態となった1995年1月17日の兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)から来年で15年になりますが、ここ10年間に及ぶJSCA関西支部の木造建築耐震化への取り組みが、各方面から注目されています。

しかし、東海・東南海・南海地震の発生確率が高まり、国が建物の耐震化率を90%まで引き上げる方針を打ち出し、地方自治体が耐震改修の促進を図っていますが、残念ながら木造住宅の耐震診断および改修設計を行う建築技術者が絶対的に不足している状況です。

そこで、今回の構造設計ゼミナールでは、一人でも多くの建築技術者が木造住宅の耐震診断および改修設計を始めるきっかけとなるように、木造の限界耐力計算による設計法について実物大実験ビデオをまじえて解説するとともに、設計で用いる応答計算シートやGsマップを紹介し、実務における作業全体のフローなどを説明し、さらに戸建住宅の耐震改修事例を紹介しました。

また最後には、新築だけでなく耐震シェルターとしても使用できる木造の新しい工法(j.Pod)を紹介しました。

2. 設計法の紹介(担当:櫻原健一)

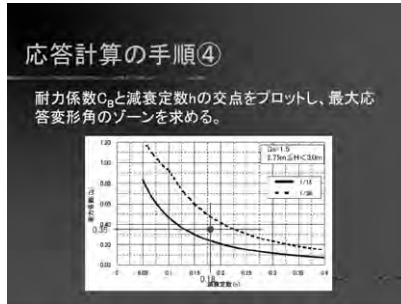
1999年から2001年にかけて日本建築学会に設けられた「木構造と木造文化の再構築」特別研究委員会で、各地域における木造軸組の特徴を整理・分類し、その構造特性を考慮しつつ自由度の高い設計法を開発するために実施されたさまざまな耐震要素の実物大振動実験ビデオを放映しました。

学会のこの取り組みに、JSCA関西支部の木構造分科会が全面的に協力し、限界耐力計算による耐震設計・耐震補強設計法を実用化させ、現在も実務講習会や木造設計レビューにより、設計法の普及活動を継続しています。

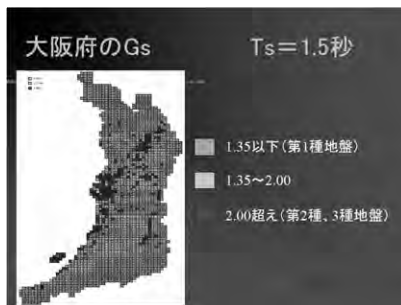
3. 応答計算シート・Gsマップの紹介と作業フロー等(担当:野島千里)

2階建てであっても、平屋として(2階以上を剛体とする)計算すれば、安全側となる条件(平屋条件)を設定し、この条件を満足する場合には、応答値が図表で求めることができる応答計算シートを作成しました。

これにより、変形モードや一質点への縮約などの煩雑な計算を省略し、耐震性能や必要な補強量を視覚的に捉えることができるようになりました。



木造建築物の基礎の根入れは浅く地表面基礎となり、地表面での地震動がそのまま設計対象となるため、表層地盤の良し悪しが建物の応答に大きな影響を及ぼすが、木造建築物では物件ごとに詳細な地盤調査が行われないため、内閣府の中央防災会議から公開されている1平方kmメッシュの表層地盤データを利用して、建設地の表層地盤増幅特性を整備したのとしてGsマップを作成しました。



ヒアリングと現地調査から始まり、診断結果の説明 → 補強案と概算工事費の説明 → 目標とする耐震性能の協議 → 補強設計 → 工事費積算 → 工事監理における実際の作業内容や、JSCA関西支部のホームページに掲載している設計料などの情報についても紹介しました。

4. 戸建住宅の耐震改修事例の紹介

(担当:大崎修)

京都市内の伝統的木造軸組構法による

住宅の耐震改修事例で、床下の腐朽した柱脚や土台を取替えまたは補修することで健全な状態に戻し、足固めの追加や礎石の打増しにより軸組を安定させ、荒壁パネルを設けることにより偏心の改善と耐力の増大を図り、さらに仕ロダンパーを設けることにより減衰性能を高めて、目標の耐震性能を確保しました。



5. j.Pod工法の紹介 (担当:樹田洋子)

杉材を用いた□の字型の剛節フレームを、等間隔に並べて四隅を鉄骨部材でつないで、モノコック構造という強固で安定した架構を構築する工法で、新築では京都大学セミナーハウスや兵庫県営夢前清水谷住宅などの実績があり、耐震シェルターへの適用も可能となっています。

財団法人日本建築総合試験所において、鉛直方向載荷および斜め方向載荷の実物大実験を行い、耐震シェルターとしての十分な性能を有していることが、確認できています。



6. おわりに

経験豊富な構造設計者の皆様が、木造の耐震診断および改修設計に関わるきっかけとなることを目指して、今後も今回の構造設計ゼミナールのような活動を継続していきたいと思ひます。

最後に、ご多忙にかかわらず構造設計ゼミナールに参加いただいた皆様と、今回の構造設計ゼミナールに協力いただいた技術委員会および木構造分科会のメンバーに感謝いたします。





第9回  
構造設計ゼミナール

耐震設計分科会  
村上 陸太

「超高層集合住宅の構造設計」  
(免震構造と制振構造)

1. はじめに

耐震設計分科会では、活動の1つとして「免震構造と制振構造」というテーマで、実際の施工現場での建物見学と構造設計内容の紹介を通じ、自分達の構造設計力を高めていこう、という活動を行っています。

今回構造ゼミナールとして、関西に急増する超高層集合住宅に着目し、既見学実施物件から、免震2件・制振2件の事例を選び出し、構造設計担当者に、ゼミナールの場で構造設計内容を紹介していただき、その後他の参加者と、いろいろな質疑・意見交換を行いました。

2. 設計事例の紹介

以下に4事例の概要を紹介します。

(1)免震建物1(目下さん)



中央コアにタワーパーキングを持つチューブ免震構造(スーパーフレックスウォール構造)。外周部を逆梁とし、剛性強度を高めている。

台風対策として台風シェアーピンを採用(地震時には切れる)。

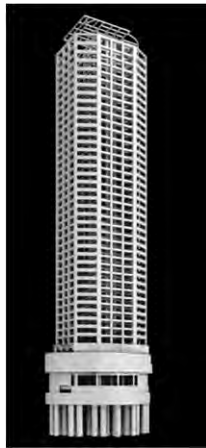
(2)制振建物1(山本さん欠席代理村上)

建物内部にコア壁(スーパーウォール)と建物頂部のメガ梁(スーパービーム)と外周部にあるコネクティング柱を制振装置(HiDAM)で繋いだ制振構造(NEWスーパーRCフレーム)。

スーパーウォール開口部にECC(高靱性材料)梁を配置。



(3)免震建物2(門脇さん)



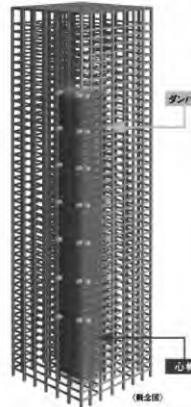
主体構造をダブルチューブ構造とし、テナントと住宅の切替え部(4階)に免震層を設けた中間層免震構造。新神戸トンネルへの影響を考え杭基礎を採用。

建物全体の地震応答を非免震・免震を比較して実施し、アニメでその効果を説明。

(4)制振建物2(西村さん)

建物の心棒となる強固な壁構造物と住棟部の剛性差を活用し、制振装置(オイルダンパー)で結んだ制振構造(デュアル・フレーム・システム)。

最適付加減衰量を予備応答解析で求め、連結する事により、最大応答変形角は47~85%に低減。



3. 質疑・意見交換

質疑として、4事例の構造設計者に、

- (1) どうして免震(制振)を選んだか
- (2) 結果的にどこがよかったか
- (3) 次の物件は同じように設計したいかの3点を、前もって考えてきていただくよう依頼していました。

そこで、「メガ梁はできればやめたい」とか「違う構造形式にも挑戦したい」等、構造設計者の本音が覗かれるような回答もあり、それらを皮切りに、ゼミナール参加者からするどい質問が続出し、意見交換の場が盛り上がりました。

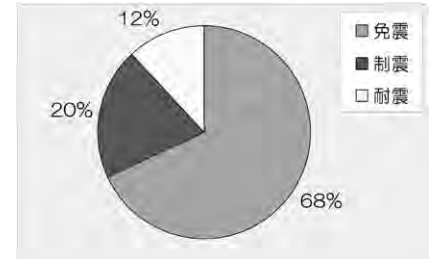
質疑の中には、制振構造の減衰量の決め方ノウハウや免震構造の台風時の残留変形対策等、構造設計者が、普段の設計時に悩み、苦しんでいる部分の質問もあり、設計者たちが回答するのに四苦八苦する場面も見られました。

免震・制振のどちらがよい、と言うような結論ではなく、多くの設計事例がある超高層集合住宅においても、まだまだ決定した構

造設計方式は確立されておらず、設計者それぞれが、設計方法を工夫し、発展させていこうという姿勢を持っている事が強く感じられました。

4. 集合住宅HP調査

設計事例紹介の他に、京阪神地区の超高層集合住宅販売用のHP(25件)から、免震・制振等がどのように分布しているか? また、構造設計の内容がどのように扱われ



ているか?を調査報告しました。

件数について、京阪神では、免震構造が2/3を占め、制振構造は1/5程度でした。また、HPの中で、基礎構造や溶接閉鎖型帯筋、高強度コンクリートの採用等が多く取り上げられていました。

ただ、その表現として、基礎は直接一杭に関わらず“堅固な基礎”であるし、コンクリート強度はm<sup>2</sup>あたりの6,000tと表現される等、構造設計者として、ちょっと・・・という表現も多く見られました。

ちなみに、首都圏で同様の件数調査をすると、免震と制振が逆転し、どちらが多いともいえない事もわかりました。



5. まとめ

結局、事例紹介・HP調査どちらでも免震構造・制振構造どちらがいい、どちらが多いという結論は出ませんでした。そして、見た目は同じような超高層集合住宅でも、構造設計がそれぞれ独自の方針でなされており、設計者として、悩み、苦しみ、そしていろいろな判断をしている事が、よくわかりました。

今後も、耐震設計分科会では、この「免震構造と制振構造」というテーマで、実際の施工現場に行き、実物を見ながら、意見交換し、分科会員各自の構造設計力を高めていこうと思っています。

最後に、ご協力いただいた構造設計者の方々、ゼミナールで率直なご意見をいただいた方々に深く感謝いたします。

**第10回 構造設計ゼミナール**  
**「構造計算適合性判定を考えよう」**  
 (株)東畑建築事務所 近藤一雄  
 (財)GBRC 角 彰

**1. はじめに**

技術委員会の各分科会が担当した9回のゼミナールの最後として役員会や構造レビュー委員会でやってきた活動について報告し、議論するために本ゼミナールを開催しました。報告は各会を代表して角、近藤が行いました。

テーマは表題のように、昨今、我々の仕事の内容を大きく変えた構造計算適合性判定の改善のために何をしていくかを考えるものです。内容は以下のように大きく2つです。

**(1)過去の取り組み**

- ①2008年1月「関西地域における適合性判定円滑化のための提案」
- ②2008年5月「構造審査・判定チェックリスト」作成
- ③2008年8月～12月「足並み調整会議」における提案

**(2)構造計算適合性判定の実例分析**

具体的設計例を挙げて、如何なる判定が行われたか、設計者はどう対応したかを示し判定・設計の望ましい形を模索する。

**2. 過去の取り組み**

判定が始まって半年が経過した2008年1月に近畿地方整備局、大阪府、近畿4判定機関に対し、設計者であり、同時に判定員であるJSCA会員の立場から両者にとって望ましい判定制度の提案を以下のように行いました。

- ①一人判定導入は慎重におこなうこと。
- ②ヒアリングの導入を進めること。
- ③非効率な確認機関経由のやり取り改善
- ④確認と判定の棲み分けを明確にする。
- ⑤指摘内容の代表例の公開
- ⑥読みづらい計算書の修正

次に5月には前記した確認と判定の棲み分けを行うためにそれぞれが主に分担すべき審査内容のチェックリストを作成し提案しました。確認では明確な法適合性の審査を、判定では工学的判断が必要な内容について主に審査することで効率を上げようとしたものです。これは形を変えながらも多くの確認機関で現在も活用されています。

8月から12月にかけて近畿4判定機関との合同で「足並み調整会議」を開催し具体的な判定例を挙げて、その改善を提案しまし

た。不適切と考えられる具体的な17判定例を挙げるとともに4項目の改善提案をしました。

- ①指摘内容が判定員によってばらつかないようにして欲しい。
- ②指摘が2007年版「建築物の構造関係技術基準解説書」の内容から逸脱することがないようにして欲しい。
- ③当該物件の設計者に依じて指摘が変わるようなことがないようにして欲しい。
- ④明らかに不合理な基準、あるいはICBAの質疑回答に対して改善の動きをして欲しい。

**3. 「構造計算適合性判定の実例分析」について**

改正基準法施行から早くも1年10ヶ月。構造計算適合性判定については、関西においても、指摘の合理化とこれに伴う判定所要期間の短縮が進み、ある程度、制度が軌道に乗ったと思われます。しかし、依然、個々の物件判定において、不合理な指摘がなされることがあります。さらに、ルート1の採用による判定そのものの回避が、高い割合で推移している等、多くの問題があります。

このような問題は、構造技術者に無用の負担を強いるとともに、建築デザインや経済設計の自由度を過度に抑制しているのではと憂慮されます。

構造計画に関する個々の工学的判断は、物件の諸条件に応じて総合的になされるものであり、その法適合基準を画一的に明示することは、現実的に不可能です。逆に言えば、そこに、適合性判定資格者を含む構造設計者の存在意義があります。構造適判の趣旨は「構造設計者同士が、専門技術の相場感を共有しながら、異なる目線で法適合確認を補い合うこと。」ではないでしょうか。

このことに立ち戻れば、適合性判定の各関係者(設計・判定・審査)には、各自の仕事を適切に実施するとともに、相手方の立場や環境をも考慮して、全体として無駄な作業を無くすためにも、的確に情報を伝達することが求められます。

具体的には

- ・「構造設計者」は、適切な検討・設計を行うことはもとより、一般的な申請図書のみでは伝えきれないことについて、コメントや資料等で的確にアピールする。
- ・「適判資格者」は、解りやすくて的確な指摘について、過不足無く行う。
- ・「指定機関」は、申請図書からは解らない審査(過程)の情報、自ら調査した事項等について、判定機関へ確実に伝達する。のようなことです。これらの取り組みが浸透すれば、手戻りが減少、各者の作業が効率化した上で、建築物の安全性がより一層確保されると考えました。

そこで、近畿地方整備局とJSCA関西と共同で、判定にかかる指摘を分析し、併せて、設計者と審査側の配慮事項を総合的にとりまとめることによって、関係各者の業務に役立たせたいと考えました。その際、分析の対象は、前提条件が確実に理解できるとともに、判定審査の流れがイメージできるよう、ある物件の実例をそのまま用いることとしました。

実例分析まとめを以下に示します。設計内容、指摘・質疑内容、追加説明回答を簡潔に整理し、指摘・質疑に対する評価を行い指摘・質疑の改善提案として指摘等記入例を示しました。同時に、審査機関における必須確認事項に対するチェックリストへの記入例、および設計者に対する留意事項についても示しました。

今後とも、JSCA内部での議論だけでなく、各関係者を交えての協議を進めて行く必要があると考えます。

構造計算適合性判定の実例分析

設計内容の整理		①判定書の指摘・質疑に対する評価、改善提案		②審査機関における必須確認事項		③設計者に対する留意事項(周知する設計情報・指摘)	
指摘内容の整理	指摘・質疑事項	理想と現実(分岐、発生できた内容)	指摘・質疑に対する評価	審査機関	留意事項	審査機関	留意事項
設計書	壁式ラーメン指針の規定	20 壁式ラーメン指針の規定	再設計	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「壁式ラーメン指針の規定は、壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。
設計書	壁式ラーメン指針の規定	21 壁式ラーメン指針の規定	見解の相違、変更なし	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「指定機関検査機関において法適合確認を行う場合は、必ずしも壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。
設計書	壁式ラーメン指針の規定	22 壁式ラーメン指針の規定	見解の相違、変更なし	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「指定機関検査機関において法適合確認を行う場合は、必ずしも壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。
設計書	壁式ラーメン指針の規定	23 壁式ラーメン指針の規定	再設計	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「指定機関検査機関において法適合確認を行う場合は、必ずしも壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。
設計書	壁式ラーメン指針の規定	24 壁式ラーメン指針の規定	修正	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「指定機関検査機関において法適合確認を行う場合は、必ずしも壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。
設計書	壁式ラーメン指針の規定	25 壁式ラーメン指針の規定	修正	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「指定機関検査機関において法適合確認を行う場合は、必ずしも壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。
設計書	壁式ラーメン指針の規定	26 壁式ラーメン指針の規定	修正	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「指定機関検査機関において法適合確認を行う場合は、必ずしも壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。
設計書	壁式ラーメン指針の規定	27 壁式ラーメン指針の規定	修正	① 設計書の対象法適合基準は壁式のものではない。確認してほしい。」「(記入例)	② 「指定機関検査機関において法適合確認を行う場合は、必ずしも壁式ラーメン指針の規定に準じて設計すること。」「(記入例)	③ 今後の壁式ラーメン指針を留意。	④ 今後の壁式ラーメン指針を留意。



## ■ JSCA関西支部2008年度事業報告

(2008年4月～2009年3月)

- 1.2008年度支部総会 5/23 建設交流館グリーンホール  
出席者39名(委任状251名)
- 2.支部役員会 5/13, 10/20
- 3.四役会 4/7, 5/8, 7/4, 8/4, 9/16, 10/7, 12/8, 1/15, 2/9
- 4.事業委員会 4/7, 10/6
- 5.技術委員会 4/24, 6/5, 7/30, 9/9, 10/14, 12/9, 2/5, 3/18
- 6.広報委員会 4/16, 7/16, 10/15, 12/5, 1/14
- 7.構造レビュー委員会 7/4, 8/4, 9/8, 11/25, 3/10
- 8.木造住宅レビュー委員会 4/22, 5/21, 5/23, 2/3
- 9.定例研究会 5/23建設交流館グリーンホール 参加者156名  
PD「安心・安全な社会を目指してPartⅢ」  
・構造設計者はどう受け止めたか。  
・建築法制面からの諸外国との比較：技術基準はどう変わったか(RC造、S造)  
・学会RC規準の改定状況について
- 10.新年活動報告会 1/16 建設交流館 参加者 77名  
・技術委員会の歩みと構造ゼミナール  
・適合性判定適正化に向けてのJSCA関西の取組み  
・海外研修を振り返って  
・ストラクチャー関西100号出版  
・将来像について
- 11.関西支部発足25周年記念事業 4/17 大阪国際会議場  
参加者 371名  
・毛利衛講演会「未来建築としての宇宙ステーション」  
・パネルディスカッション「建築の未来を語ろう」
- 12.現場見学会  
・中之島ダイビル 7/30 参加者 42名  
・セキスイハウス御堂筋本町ビル 3/10 参加者 45名
- 13.海外視察研修(第21回)  
・クアアチア建築視察 8/30～9/6 参加者 20名
- 14.構造設計ゼミナール  
第4回「何でも聞こう！あの建物の構造設計」  
6/20 科学技術センター 参加者 32名  
第5回「じはん・きそ・すべきこと・できること」  
8/22 科学技術センター 参加者 58名  
第6回「PC造を設計しませんか」  
10/10 科学技術センター 参加者 48名  
第7回「一貫計算プログラムでの留意点」  
11/28 科学技術センター 参加者 50名  
第8回「木造の耐新診断をはじめませんか」  
2/13 科学技術センター 参加者 51名  
第9回「超高層集合住宅の構造設計」  
3/31 科学技術センター 参加者 57名
- 15.支部報  
Structure Kansai No.97,98,99,100 発行
- 16.技術委員会各分科会  
・地盤系分科会 4/16, 6/18, 8/6, 10/15, 12/10, 2/18  
・RC分科会 6/4, 8/20, 10/21, 12/2, 2/3  
・金属系分科会 4/25, 5/30, 10/27, 12/18, 2/19, 3/17  
・情報システム分科会 6/25, 9/17, 11/13  
・耐震設計分科会 6/27, 7/22, 8/27, 10/21, 11/12, 12/18, 2/18  
・PC・工業化分科会 5/26, 6/27, 7/25, 8/26, 10/1, 1/30  
・構造計画分科会 4/15  
・木構造分科会 4/2, 6/4, 8/6, 10/1, 12/3, 2/4  
・法制分科会 7/3, 9/4, 12/11, 3/27
- 17.サテライト活動  
・京滋会 11/21 学芸出版社3階ホール 参加者 30名  
中島正愛先生講演会 「これからの耐震工学」
- 18.若手技術者育成講座 2/5 科学技術センター 参加者14名
- 19.講習会  
「スキルアップセミナー」大阪国際会議場 7/14, 10/20  
「木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会」  
安田ビル会議室 4/2, 7/2, 10/11, 12/3, 2/4  
「5.12中国四川地震被災現場視察・現地検討会」参加報告会  
科学技術センター 11/17
- 20.親睦会  
・支部総会懇親会 5/23 建設交流会館 参加者 80名  
・賀詞交歓会 1/16 建設交流会館 参加者 89名
- 21.足並み調整会議 8/26, 9/16, 10/7, 10/10  
・近畿地区適判機関4機関とJSCA関西支部の適判の指摘内容の足並み調整について
- 22.研究受託  
・京都市「京都市京町家派遣耐震診断士養成に係る講習内容作成調査及び講義等実施業務」  
・大阪府「富田林市・旧田中邸耐震診断業務委託」  
・奈良県「建築構造に関する講習会」  
・限界耐力計算による木造住宅の耐震設計レビュー：5件

## 23.他団体への委員・講師の派遣

委員の派遣

- ・大阪府住宅・建築物耐震10カ年戦略プラン策定ワーキング 榎原健一
- ・大阪市住まい公社「大阪市耐震改修支援機構」  
角 彰、榎原健一、榎田洋子、横田友行
- ・大阪市住まい公社「大阪市耐震改修支援機構 コンプライアンス委員会」  
榎原健一、角 彰
- ・神戸市「建築構造専門審査会」 久森敏平、山田正人
- ・(財)日本建築総合試験所「各種構造審査委員会」  
近藤一雄、多賀謙蔵、森田秀喜
- ・(財)日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 安井雅明
- ・(財)日本建築総合試験所「判定助言委員会」  
近藤一雄、角 彰、太田寛、西村勝尚、多賀謙蔵、
- ・(財)大阪建築防災センター「大阪府公立学校施設耐震診断等判定委員会」  
辻英一、瓜生田尚彦、緑川功
- ・(財)大阪建築防災センター「耐震改修評価委員会」 多賀謙蔵
- ・(財)大阪建築防災センター「大阪府建築確認に関するアドバイザー委員会」  
角 彰
- ・(財)日本住宅・木材技術センター「伝統構法の設計法作成及び性能検証実  
験検討委員会」 榎原健一、野島千里、横田友行、鳥羽瀬公二
- ・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 角 彰
- ・大阪府建築士会「会員資格に関する審査委員会」 横田友行
- ・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正

講師派遣

- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定養成講習会」 9/18, 10/22, 11/26, 2/10, 3/11 吉澤幹夫、西邦弘、渡辺勲
- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定更新講習会」 12/18 吉澤幹夫
- ・京都市都市計画局建築指導部「京町家派遣耐震診断講習会」  
10/9, 10/10 榎原健一、小倉正恒、横田友行、野島千里
- ・大阪府建築士会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針講習会」 11/13, 11/14  
多賀謙蔵、谷口由乃、水井勇人、嶋崎敦志、上田博之
- ・大阪府建築士会「既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修指針講習会」  
10/24 新居努、島野幸弘、塚越治夫、渡辺律夫
- ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会」  
9/16, 9/22, 9/30, 10/21, 10/28, 11/11, 11/18, 12/2  
榎原健一、野島千里、四宮忠明、横田友行、榎田洋子、小倉正恒、  
北山宏貴、鈴木直幹、大崎修
- ・大阪府建築士会「建築士のための指定講習会」 10/3 嶋崎敦志
- ・大阪府建築士会「すべての建築士のための総合研修」  
1/23, 2/20 横田友行、前野敏元
- ・奈良県土木部まちづくり推進局建築課  
「第1回構造関係技術基準講習会」  
2/18 新保勝浩、多賀謙蔵、辻幸二、安井雅明  
「第2回構造関係技術基準講習会」  
3/11 山浦晋弘、塚越治夫、島野幸弘、嶋崎敦志
- ・八尾市公共建築課「耐震診断講習会」 3/18 峰隆俊
- ・尼崎市都市整備局「平成20年度技術研修—耐震診断」  
10/3, 11/14, 11/28, 12/5 村上陸太、西崎隆氏
- ・奈良女子大学の非常勤講師  
10/15, 10/22, 10/29, 11/12, 11/26, 11/27, 12/3, 12/17  
榎原健一、小倉正恒、神澤宏明、近藤一雄、野島千里、大崎修、太田寛

## 24.関連団体との交流

- ・建築関連14団体事務局会議 9/8
- ・建築関連14団体会長・支部長ご餐会 10/27
- ・建築関連14団体2009年新年交礼会 1/5

## ■ JSCA関西支部2009年度事業計画

(2009年4月～2010年3月)

- 1.2009年度支部総会 5/20 建設交流館グリーンホール
- 2.支部幹事会 4/27
- 3.四役会 4/7
- 4.事業委員会 4/14
- 5.技術委員会 5/13
- 6.広報委員会 4/15
- 7.構造レビュー委員会
- 8.木造住宅レビュー委員会 4/20
- 9.大阪府域 内陸型地震動対応委員会
- 10.定例研究会 5/20 建設交流館グリーンホール「構造デザイン発表会」
- 11.新年活動報告会 1月予定
- 12.現場見学会 7月予定
- 13.視察研修  
・第22回海外研修「キャンデラ建築とメキシコ世界遺産視察」 9/16～9/23
- 14.構造設計ゼミナール  
第10回「構造計算適合性判定を考える」 4/24  
第11回「RC非構造壁の実務的取扱いの現状と課題」 6/26(予定)  
第12回「魅せる鉄骨建築(仮題)」 9/11(予定)
- 15.支部報 Structure Kansai No.101,102,103,104 発行予定

16.技術委員会各分科会

- ・地盤系分科会 4/15
・RC分科会 4/7
・金属系分科会 4/21
・情報システム分科会
・耐震設計分科会
・PC・工業化分科会 4/10
・構造計画分科会
・木構造分科会 4/1
・法制分科会

17.サテライト活動

- ・奈良会 ・京滋会 ・兵庫会

18.若手技術者育成講座 2月予定

19.講習会

「建築構造物のための2009年度定期講習会」 7/25 いちようホール
「木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会」
4/1 安田ビル

20.親睦会

- ・支部総会懇親会 7/10 建設交流館
・賀詞交歓会 1月予定

21.足並み調整会議

22.住宅・建築物の地震防災推進連絡会

23.法人化20周年記念アーキアリング・デザイン展

9/28～10/12 京都工芸繊維大学

24.研究受託

- ・限界耐力計算による木造住宅の耐震設計レビュー

25.他団体への委員・講師の派遣

委員の派遣

- ・大阪市耐震改修支援機構 角 彰、榎原健一、榊田洋子、横田友行
・神戸市「建築構造専門審査会」久森敏平、山田正人
・(財)日本建築総合試験所「各種構造審査委員会」
近藤一雄、多賀謙蔵、森田秀喜

- ・(財)日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」
安井雅明

- ・(財)日本建築総合試験所「判定助言委員会」

- 近藤一雄、辻幸二、西村清志、西村勝尚、多賀謙蔵、
・(財)大阪建築防災センター「大阪府公立学校施設耐震診断等判定委員会」
辻幸一、瓜生田尚彦、緑川功

- ・(財)大阪建築防災センター「耐震改修評価委員会」 多賀謙蔵

- ・(財)大阪建築防災センター「大阪府建築確認に関するアドバイザー委員会」
近藤一雄

- ・(財)日本住宅・木材技術センター「伝統構法の設計法作成及び性能検証
実験検討委員会」 榎原健一

- ・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 角 彰

- ・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正

講師派遣

- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定
養成講習会」

- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定
更新講習会」

- ・京都市都市計画局建築指導部「京町家派遣耐震診断士講習会」

- ・大阪府建築士会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針
講習会」

- ・大阪府建築士会「既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修指針講習会」

- ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会」

- ・大阪府建築士会「建築士のための指定講習会」

- ・大阪府建築士会「すべての建築士のための総合研修」

- ・奈良県土木部まちづくり推進局建築課「構造関係技術基準講習会」

- ・八尾市公共建築課「耐震診断講習会」

- ・尼崎市「建築技術研修会」

26.関連団体との交流

- ・建築関連14団体事務局会議 4/8

- ・建築関連14団体会長・支部長ご餐会

- ・建築関連14団体2010年新年交礼会 1/4

■2009年度支部役員

- 支 部 長 近 藤 一 雄 (東畑建築事務所) :支部担当理事
副支部長 辻 幸 二 (鹿島建設) :本部担当理事
幹 事 浦 田 健 一 (うらたつみ建築技研)
太 田 寛 一 (鴻池組)
榎 原 健 一 (SERB)
小 倉 正 恒 (清水建設)
新 角 保 浩 (和田建築技術研究所)
多 賀 謙 蔵 (日本建築総合試験所)
松 村 秀 夫 (松村構造計画)
森 平 秀 豊 (安井建築設計事務所)
宮 崎 英 也 (三菱地所設計)
増 木 雅 明 (山田建築構造事務所)
横 田 友 行 (大林組)
(能勢建築構造研究所)

――は新任

- 監 査 三 原 清 敬 (三原建築構造設計事務所)
福 山 國 夫
支 部 顧 問 内 谷 直 樹 (溶接研究所)
谷 田 俊 弘 (イオリ建築設計事務所)
辻 尾 英 一 (安井建築設計事務所):本部担当理事
馬 瀬 芳 一 (馬瀬構造設計事務所)
八 木 知 樹 (大林組)
和 田 樹 勉 (和田建築技術研究所)

- 事 務 局 前 野 敏 元 (竹中工務店) 局長
阿 波 昌 幸 (日建設計)
片 山 丈 士 (竹中工務店)
神 沢 宏 明 (竹中工務店)
佐 藤 啓 治 (鴻池組)
嶋 藤 敦 治 (大成建設)
西 村 勝 尚 (大林組)
石 原 邦 子 (JSCA大阪事務所事務長)

- 事業委員会
委 員 長 新 平 保 勝 (和田建築技術研究所)
委 員 長 藤 井 浩 豊 (三菱地所設計)
前 野 正 則 (大林組)
宮 崎 敏 也 (竹中工務店)
山 崎 英 也 (山田建築構造事務所)
横 浦 晋 弘 (安井建築設計事務所)
田 川 友 友 (能勢建築構造研究所)
渡 川 洋 行 (平田建築構造研究所)

- 技術委員会
委 員 長 多 賀 謙 蔵 (日建設計)
委 員 長 西 大 賀 謙 蔵 (竹中工務店)
大 吉 村 平 川 (大林組)
白 井 端 誠 (日建設計)
桶 本 友 誠 (竹中工務店)
横 田 友 行 (竹中工務店)
(構造計画研究所)
(北條建築構造研究所)
(安井建築設計事務所)
(能勢建築構造研究所)
(木構造)

- 広報委員会
委 員 長 安 石 大 垣 金 河 (大林組)
委 員 長 田 野 白 田 (鹿島建設)
大 垣 金 河 (大林組)
白 田 平 野 (鴻池組)
山 藤 三 山 (Ks構造設計事務所)
河 野 白 田 (竹中工務店)
平 野 三 山 (北條建築構造研究所)
山 藤 三 山 (日建設計)
白 田 平 野 (イオリ建築設計事務所)
藤 三 山 (大林組)
山 藤 三 山 (三輪建築構造事務所)
山 藤 三 山 (安井建築設計事務所)
山 藤 三 山 (竹中工務店)
若 干 名、公 募 予 定

- 構造レビュー委員会
委 員 長 太 阿 波 野 寛 (鴻池組)
委 員 長 浦 田 昌 幸 (日建設計)
野 崎 利 幸 (ウラタツミ建築設計室)
柳 健 一 (SERB)
原 一 士 (竹中工務店)
藤 保 一 勝 (東畑建築事務所)
近 新 角 多 賀 謙 蔵 (和田建築技術研究所)
辻 幸 幸 二 (日本建築総合試験所)
西 村 勝 尚 (日建設計)
西 村 勝 尚 (鹿島建設)
西 村 勝 尚 (能勢建築構造研究所)
西 村 勝 尚 (平田建築構造研究所)
西 村 勝 尚 (大林組)
西 村 勝 尚 (防災科学技術研究所)
西 村 勝 尚 (北條建築構造研究所)
西 村 勝 尚 (桃李社)
西 村 勝 尚 (竹中工務店)
西 村 勝 尚 (フォルムふぉらむ)

- 宮 崎 英 也 (山田建築構造事務所)
森 安 八 木 (安井建築設計事務所)
安 八 木 (大林組)
横 田 友 行 (大林組)
榎 原 健 一 (能勢建築構造研究所)

- 木造住宅レビュー委員会
委 員 長 榎 原 健 一 (SERB)
委 員 長 大 崎 倉 正 恒 (大崎建築設計事務所)
小 崎 倉 正 恒 (清水建設)
四 木 直 幹 (誠和学院まちづくりラボ+センター)
鈴 野 樹 里 (竹中工務店)
野 崎 英 也 (野島建築設計事務所)
横 田 友 行 (桃李舎)
(能勢建築構造研究所)

- 大阪府域・内陸型地震動対応委員会
委 員 長 角 多 賀 謙 蔵 (日本建築総合試験所)
副 委 員 長 近 藤 一 雄 (日建設計)
藤 保 一 勝 (大林組)
新 篠 塚 浩 本 (東畑建築事務所)
徳 幸 幸 二 (和田建築技術研究所)
中 川 幸 一 (日建設計)
西 村 勝 尚 (安井建築設計事務所)
前 野 敏 元 (竹中工務店)
西 村 勝 尚 (大林組)
西 村 勝 尚 (大林組)
西 村 勝 尚 (竹中工務店)

- 危機管理委員会
委 員 長 八 木 貞 樹 (大林組)
副 委 員 長 渡 辺 清 志 (大成建設)
委 員 長 西 村 勝 尚 (平田建築構造研究所)
西 村 勝 尚 (東畑建築事務所)

- アーキアリング・デザイン展実行委員会
委 員 長 新 平 保 勝 (和田建築技術研究所)
委 員 長 藤 井 浩 豊 (三菱地所設計)
前 野 敏 也 (山田建築構造事務所)
宮 崎 英 也 (平田建築構造研究所)

- 構造士更新講習会等評価WG
委 員 長 福 山 國 夫 (防災科学技術研究所)
委 員 長 榎 原 健 一 (SERB)
近 藤 一 雄 (東畑建築事務所)





## ●事務局だより

### 1.支部総会

5/20(水)15:45～17:00

### 2.支部幹事会

4/27(月)

### 3.四役会

4/7(火)、6/15(月)

### 4.事業委員会

4/14(火)

・現場見学会 茶屋町アプローチ(7月予定)

### 5.技術委員会

5/13(水)18:30～20:00

・第11回構造設計ゼミナール

(RC分科会)の企画内容確認

・第12回、第13回構造設計ゼミナールのテーマについて

### ○構造設計ゼミナール

4/24(金)18:00～20:00

「構造計算適合性判定を考えよう」

・足並み調整会議での取り組み

・近畿地方整備局との取り組みによる集合住宅の判定事例に基づく提案

・6/26(金)17:30～19:30(予定)

「RC非構造壁の実務的取り扱いの現状と課題」

### 6.広報委員会

4/15(水)18:00～19:20

・Structure Kansai 102号 編集会議

・Structure Kansai 103号 企画会議

・支部HPの改善について

### 7.レビュー委員会

4/15(水)、6/3(水)、6/16(火)(予定)

・某建物の構造補強の妥当性について

### 8.木造住宅レビュー委員会

4/6(月)15:00～17:00

・木造建物の限界耐力計算に関する行政上の扱いについて

4/20(月)13:00～18:00

・木造建物の限界耐力計算に関する行政上の扱いについて

5/12(火)15:00～17:00

・耐震シェルターの検討法と補助金について

### 9.定例研究会

7/10(金)14:30～17:30(予定)

場 所:西本町インテス

内 容:構造デザイン発表会

懇親会7/10(金)18:00～(予定)

### 10.支部報

Structure Kansai No.101発行

### 11.技術委員会各分科会

#### ○地盤系分科会

4/23(木)18:00～20:00

・SGE工法について

6/16(水)14:00～17:00(予定)

・工場見学と既製コンクリート杭の設計についての議論

#### ○RC分科会

4/7(火)18:00～20:00

・最新トピックス紹介

①メガフレームと免震構造を採用した研究施設

②コラムジョイントダンパーを採用した複合施設

・構造設計ゼミナール企画案について

5/15(火)18:00～20:00

・構造設計ゼミナール企画案について  
6/10(水)、6/24(水)18:00～(予定)

#### ○金属系分科会

4/21(火)18:00～20:00

・「ガラスフレームレス構法と支持構造」に関する勉強会

・構造設計ゼミナールについて

6/18(木)18:00～(予定)

・「システムトラスおよび膜構造」に関する勉強会

・構造設計ゼミナールについて

#### ○情報システム分科会

5/12(火)18:15～20:00

・構造設計とBIM

6/1(月)18:00～20:00

・「大臣認定構造計算プログラムを用いた構造計算書の確認審査・構造計算適合性判定のガイドライン」改訂について

#### ○耐震設計分科会

4/21(火)15:00～17:00

・超高層制振構造事例紹介

#### ○PC・工業化分科会

4/10(金)18:00～19:30

・積層する大空間を有するPC建築(建築技術2009.04)紹介

・PC構造建築の適合性判定指摘事例について

7/17(金)18:00～20:00(予定)

・海外建物の紹介

・JCI関連

#### ○木構造分科会

4/1(水)18:30～20:30

・行政等の動き

・耐震シェルターについて

・大臣認定プログラムについて

6/3(水)18:30～20:30

・今年度のJSCA関西について

・今年度の建築士会の講習会について

・大臣認定プログラムについて

・大阪市耐震改修補助事業について

・東京都と大阪府の表層地盤種別とGsの比較

・住木センター振動実験記録の放映

8/5(水)18:30～(予定)

#### ○法制分科会

6/8(月)17:00～19:00

・構造設計と建築法規制との現状整理と将来展望

8/3(月)17:00～19:00(予定)

・「建築構造分野における品質確保のための新たな社会システムの制度及び技術基準に関する調査業務報告書、平成17年2月、JSCA」に対する意見交換

## 12.サテライト活動

#### ○奈良会

7月(予定)

・東大寺大仏殿 小屋組み観察(明治期の鋼材による補強)

#### ○兵庫会

6/16(火)(予定)

・兵庫県建築構造技術研究会

7/1(水)(予定)

・神戸市すまいの耐震キャンペーン連絡会

## 13.アーキニアリング・デザイン展実行委員会

5/14(木)

## ●編集後記

5月より、近藤支部長のもと、新たな体制でJSCA関西が始動しましたが、いきなり豚インフルエンザ問題が勃発し、JSCA関西支部においても、支部総会はマスク着用等の条件をつけ、時間を変更して何とか開催されましたが、予定されていた定例研究会(構造デザイン発表会)が延期されるなど大きな影響を受けました。Structure Kansaiにおいても、定例研究会を本号のメイン記事として予定していたため、急遽記事の内容を変更する必要が生じ大慌ての状態になりました。

ご多忙中、貴重な時間を割いて執筆していただきました皆様に厚くお礼申し上げます。(三輪・藤井)

発行 (社)日本建築構造技術者協会  
関西支部事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル3F)

Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

URL <http://www.mmjp.or.jp/jsc-kansai/>